

[タイム] 南月山(9:15)→左俣中沢下降開始(9:30)→左俣右沢出合(10:30)

不動沢左俣右沢 1992年9月5日

左俣右沢も、左俣中沢と同様、大小の岩が積み重なり、その下を水流が音を立てて流れている。表面の流れは次第に細くなり、やがて消えてしまった。そんな中をなおも登ってゆくと、小さな水の流れが再び現れ、その先に岩壁が立ち上がり、沢は40mの滝となっている。右手のルンゼを登れば捲けるかと思ったが、単独行ではちょっと登りきるふんざりがつかない。かといって高捲くとなれば、大高捲きとなる。30分ほど偵察していたが、ここより上部はまた何かの機会にすることにして、引き返す。

中沢との出合より下部には、小さなナメと小滝があっただけで、右俣出合へ。

(記・

[タイム] 右沢出合(10:30)→右沢最高到達点(10:40, 11:20)→中俣出合(12:00)

不動沢中俣 1992年9月5日

中俣の入口すぐの20m 2段滝は簡単には登れない。右岸から高捲くことにして、左俣にすこし入ってからとりついた。高捲きにはたっぷり50分。ずっと樹林帯の中であったが、一部クマザサが濃い部分があった。高捲きの途中で20m 2段滝の上に5m滝が3つほど観察されたが、この部分の詳細は不明である。

ルンゼの最上端を回り込んでから沢に下る。降り立った先にまた4m滝。ここは右岸のバンドをトラバースするようにして越える。まもなく右岸には岩場がそそりたつようになり、カレ沢が急傾斜で突き上げている。本流には5mの滝。左岸岩棚に登り、トラバースする感じで滝の上に出る。ここまでが中俣の核心部で、あとは平凡となった。

やがてヤブがかぶさってきた。うるさいヤブをかきわけて進む。まったくヤブこぎ同然である。そのヤブも、次第に薄くなり、パイプが散乱しているあたりに

くるとすっかり消えてしまった。そのかわり水流も消える。水源は湧水であったが、一部はぬるま湯のようなやや温度の高い湧水であった。

その後10分程水のカレた沢を登ってから、右手の尾根を越えて登山道に出る。

()

[タイム] 中俣出合(12:00)→中俣終了(14:00)

大沢左俣 1992年9月23日

● 6時、遡行開始。出合から50分間はゴロ歩きと砂防越えに終始する。砂防ダムは合計11個を数えた。11個目の砂防ダムを越えると、沢は樹林帯に入る。10分程で西沢出合。水量は西沢の方が多い。大沢は所々伏流になっている。

左岸から土砂をいっぱい押し出している支流が合流し、沢が左に曲がると滝が出てきた。まずは5m。左岸を直登する。ホールドが多く楽に登れた。この滝をかわきりに小滝やナメが連続するようになる。20mの滝は中央右より中段のテラスまで登ってみたが、残置ハーケンのあるあたりが自信がなく、今日は単独行ということもあって搦ぐことにする。いったん下って右岸を搦ぐが、搦き道は跡跡がかなりはっきりと付いていた。この沢は入山者が多いようだ。

20m滝の上は急なナメと滝の連続となった。5m 2段滝を右岸から越えた後の7m滝。左岸を直登するが、最上部は頭上の灌木をつかみながらの短いが微妙なトラバースとなった。

● 8時、二俣。左俣はきれいなナメ滝となっているが、右俣は貧弱である。本流である左俣にルートをとる。最初の20mナメ滝は左側を登る。ホールドは多い。次の20m 4段の滝が続く。1段目右岸を登り、左岸に渡って2段目に取り付く。2段目最上部は登りにくく、左岸のブッシュ帯に逃げ込んで越える。3段目、4段目は左岸を楽に直登する。

音をたてて流れていた水が急に少なくなってきた。40m滝にはチョロチョロとしか流れておらず、カレ滝に近い状態となっている。登れそうな感じもしたが、左手のルンゼにルートを求め、トラバース気味にヤブをこいで滝の上に出る。左俣の核心部はここまでで、ここからは沢の規模が一気に小さくなった。

沢の規模は小さくなったというものの、滝は次々に出てくる。しかし、これま

